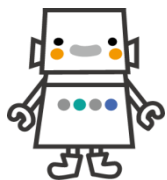


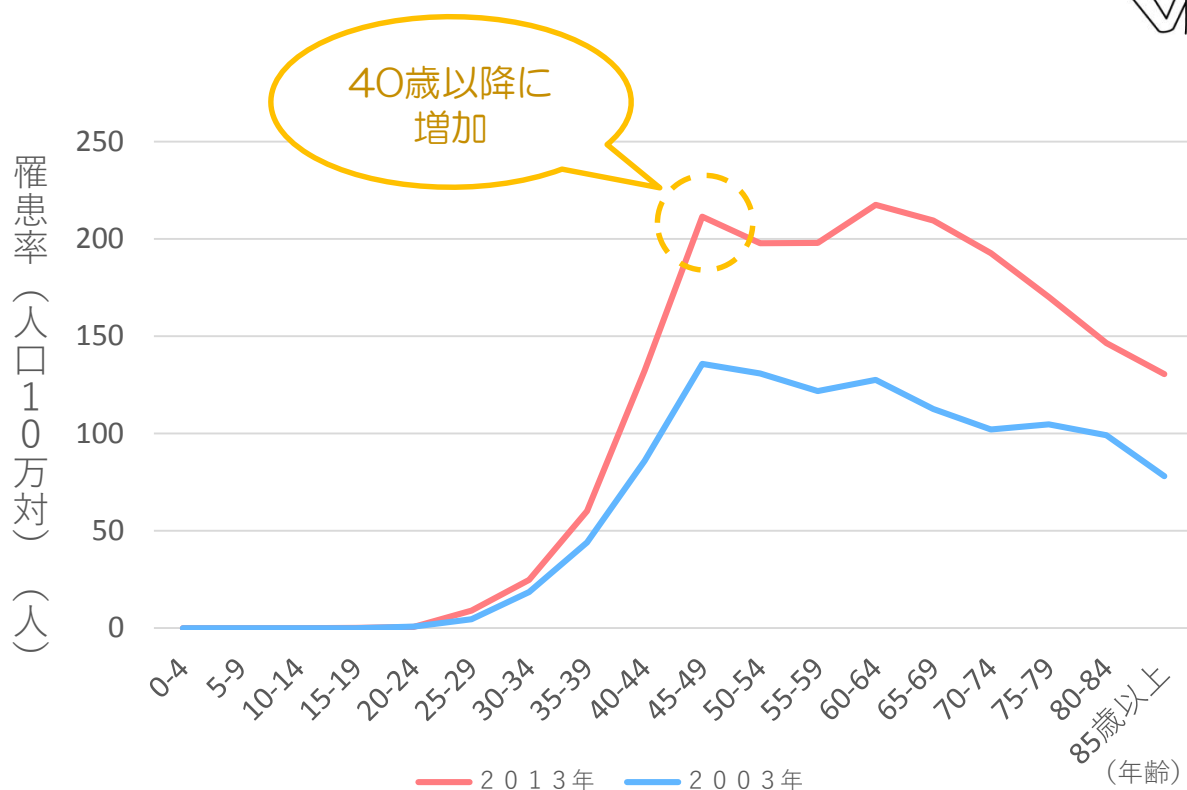
Vol.8 乳がん検診はなぜ必要？

文責：所長 医師 内田 賢



乳がん検診はなぜ必要なのですか？

乳がんの罹患率は各年代で増加し、日本女性のがんの中で最も多く21%を占めています。特に、40歳以降に増える傾向のため、40歳からの乳がん検診はマンモグラフィを推奨しています。

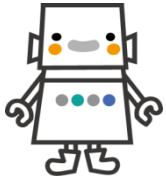


年齢階級別 罹患率（全国推計値） （国立がん研究センター がん情報サービス）



乳がんは、**早期発見**により適切な治療が行われれば、良好な経過が期待できます。**しこり**など自覚症状がある場合は**速やかに受診**する事を勧めますが、無症状の場合でも、**乳がん検診**により乳がんが見つかることがあります。

Vol.8 乳がん検診 ～高濃度乳房～ とは？ (つづき)



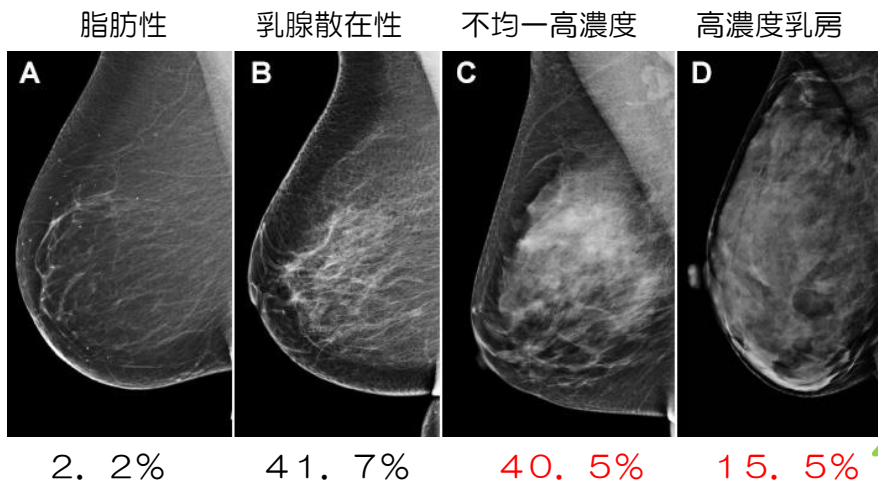
高濃度乳房とは何ですか？

乳房は、乳腺と脂肪からなっています。マンモグラフィで撮影すると、乳腺は白く、脂肪は黒く映ります。この白い部分が多い乳房を高濃度乳房と呼びます。



マンモグラフィの乳房濃度

高濃度乳房



日本人では高濃度乳房が半分以上を占める

- * 40歳代の若年齢では乳がんの発見率（感度）が低いと言われる原因は、若年齢層では乳房の密度が高く、高濃度乳房であることが多いため
- * 高濃度乳房は、乳がんのリスクが高い傾向にある

マンモグラフィの高濃度乳房の対策

① 3Dマンモグラフィ (トモシンセシス)

→40～75歳の方はマンモグラフィより3Dマンモグラフィ (より精密) の方が、乳がんの発見率は増加！

* 血縁に乳がんの家族歴がある女性は、①②いずれかにされた方が安心です

② マンモグラフィ+超音波

→40～49歳の方はマンモグラフィと超音波を併用すると、40歳代の乳がんの発見率が増加！

当センターでは、健康相談を実施しています。
健診の際は、お気軽にご相談ください。